

住信為替ニュース

THE SUMITOMO TRUST & BANKING CO., LTD FX NEWS

第1791号 2005年08月22日(月)

《 A forecast for the election 》

まだ公示も行われていないのですが、9.11実施の衆議院選挙の展望を行ってみたいと思います。結果は、その後の日本や世界の金融市場に大きな影響がありますから。

1. 週末の各社テレビ番組がそうだったが、今回の選挙に関しては世の中総じて「どの造反議員選挙区にどの刺客が送られた」式の騒ぎ方をしている。しかし、そうした選挙区は全体(300小選挙区・同議席)の10分の一に過ぎない。選挙の大勢を決めるのは、他の選挙区選挙と比例区選挙(180議席)の行方・結果である
2. 一番のポイントは、「投票者の投票行動時における心理的ねじれ現象」がどのような方向で解消されるかでしょう。もしかしたら「ねじれ」は続くかも知れないし、それが日本の政治構造に根ざしているとも言えるが、筆者は今回は「ねじれ」が解消に向かうと見ている
3. その「ねじれ」現象とは、投票者のバランシング・アクト(均衡行為)として現象的に見られるもので、選挙区選挙での自民党候補への投票と、その代償としての比例区選挙での民主党への投票行動を指す。2003年の前回総選挙の結果を見れば、日本の投票者の行動パターンとして顕著なものとして指摘できる
4. しかし、こうした「ねじれ」投票行動は今回の場合大きく解消する可能性がある。選挙が今までのようなイメージでの人選び、政党選びの段階を過ぎて、日本、日本経済が大きな曲がり角に立つなかで投票者がイシュー(争点)ごとに方向性を明確にし、そして政治的決断する可能性が強いと考えられるからである
5. 「国民新党」や「新党日本」を生んだ政治のうねりのなかで、いわゆる造反議員を抱えた選挙区では、自民党の分裂選挙から民主党が現実的に有利に選挙戦を展開する可能性が高い。しかし「民主党には風は吹かない」という筆者の予想は今のところ当たっているし、今後もそうだろう
6. 「ねじれ」が小泉自民党有利の形で解消すれば、自民・公明の連立政権は合計260を上回る議席を得る可能性がある。これは現行の283にかなり近い数字である。一方、「単独政権」を目指す岡田・民主党にとって政権は依然として遠い存在で終わろう。民主党は岡田代表が辞任する段階で、小泉総裁で固まった自民党よりも大きな政界再編の目になる可能性が強い

今の衆議院総議席総数は480であり、うち選挙区選挙で300人を、比例区選挙で180人を選ぶことになっている。投票者は投票所に行ってまず選挙区選挙を行う。用紙をもらって自分の選挙区候補者のなかから自分が投票したい一人の名前を書く。次に比例用の選挙用紙をもらい、そこに支持する政党の名前を書くという方式だ。

前回の衆議院選挙は2003年の11月に行われ、その時の獲得議席は以下の通りだった。

自民	民主	公明	保守	共産	社民	自由連合	その他
237	177	34	4	9	6	1	12

その後合従連衡があって、今年8月の解散時の衆議院戦力は朝日新聞のサイトによれば以下の通り。

自民	民主	公明	共産	社民	自由連合	無所属	欠員
249	175	34	9	6	1	3	3

自民党が選挙時より大幅に増えたのは、2003年の選挙時点にあった保守党が合流したことと、引き続き「その他」(無所属など)で当選した議員の多くが自民党に加わったからである。この結果、小泉首相が総選挙に打って出る前の連立与党(民主・公明)の持つ議席数は283だった。これは過半数の241を大幅に上回っている。

もっとも今現在の自民党は、衆議院で郵政民営化に反対票を投じた37人をほぼ除名状態にしているので、自民党の現有議席は「249 - 37」で212と考えることができる。つまり今の連立与党の合計は「212 + 34」で246である。これは、衆議院の過半数である241をわずかに上回るに過ぎない。

もっとも、小泉首相は連立与党で過半数を取れなければ退陣すると言っているが、現状で既に過半数を超えている。そういう意味では最低限の政権維持は、そう高くないハードルだ。

《 twisted mind for voters 》

注目されるのは、議席の取り方に自民党と民主党の間で大きな違いがあることだ。これを筆者は「日本国民の投票行動におけるねじれ現象」と呼んでいる。具体的には、選挙区選挙では自民の候補に投票するが、その一種の心理的代償行為として比例区選挙では民主党に入れる人が多かったということだ。

実際に2003年の選挙を見ると、その傾向がはっきり分かる。2003年の開票時実績を見ると、自民党が獲得した237議席のうち、同党は選挙区選挙で168議席を取って

いる。全議席300のうちの56%を取っているのである。対して民主党は選挙区選挙では105しか、つまり全体の35%しか取っていない。民主党が選挙区選挙に弱いことが分かる。

しかしこれを比例区選挙で見ると事情が全く違ってくる。比例区選挙に与えられた180議席のうち、自民党は69しか取れていない。全体の38%だ。これは選挙区選挙で全議席300の56%を取った政党としては非常に低い数字だ。対して民主党は選挙区選挙で全議席の35%しか取れなかったにもかかわらず、比例区選挙では180議席のうちの72議席、40%を取っている。「比例で健闘する民主」の姿が明確だ。

非常に重要なことは、比例区選挙での各党投票獲得数（日本全体）を見ると、自民党2066万票に対して、民主党が2210万票と完全に民主党が第一党になっていることだ。これは重要である。その内訳を見ると、全国11ブロックのうち、民主党の方が勝っているのが北海道、北関東、南関東、東京、東海、近畿と11ブロックのうち6ブロックもあって、近畿、東京、東海ではかなり差が付いている。つまり民主党が有利なのだ。

なぜこんなねじれが生じているのか。いろいろな意見があるだろうが、筆者は、投票者のサイドの「心理的代償行為」だと思う。まあ言ってみれば、投票者のbalancing・アクト（均衡行為）だ。つまり、選挙区選挙ではこれまでの経緯もあるし、今までの政権党だから安心だから自民党候補に投票する。しかし、自民党の政治が特に好きなわけではない。また、自民党があまりにも強くなって日本の政治が一方向になるのも嫌だと思える人が多いと考えられる。

その結果どうなるかという、選挙区選挙で自民党候補に投票した多くの人が、その心理的代償行為として、比例区選挙での民主党へ投票していたと思われる。もしそうでないとすれば、選挙区選挙と比例区選挙での自民党の得票比率の差が理解できない。2003年の総選挙の時に、時の幹事長である安倍晋三氏も同じ見方をしていた。

これは、仕方なく自民党に選挙区選挙では投票するが、内心では留保条件ありという人が、比例区選挙では好んで民主党に入れたということだ。民主党は、その分だけ比例区選挙でそもそも優位に立っていたと言える。

今までの日本の選挙で特徴的だったのは、「政策選挙」を理想としながら、決してそうはならなかったことである。その一つの要因は、自民党にも民主党にも改憲を目指す主義の人がいたり、経済の方向性に関しても民営化に舵を切ること賛成の人が両党にいたりとした状況で、選挙民にとって選びにくかったということがあると思う。主張が入り組んでいるのである。共産党はこれを「オール与党」と呼んでいる。主義主張にあまり変わりがないということである。

今でもそういう状況は変わっていない。実際に両党の幹事長が話をしていると、「どこが違うのか」と思うことがある。しかし、主義主張は同じでも、それを実現する手順とスピー

ド感は違う。例えば「郵政民営化」だが、今すぐやるのか、もうちょっと時間をかけてやるのか、という選択肢が日本の政治のなかで出てきた。それが自民党のなかでも割れて37人の追放になったが、変わってきたのは政治の「手順とスピード」を巡る争いになってきたということだ。

これは、アメリカの共和党と民主党の、いくつかの改革における手順とスピードの違いを巡る争いに近い面がある。かつての日本のように、そもそも主義主張が全く相容れないとすることではない。お互いに分かり合えるのだが、手法や重点の置き方が違うのである。そしてそれが十二分な争点になる。日本の民主主義も成熟してきたと言うべきか。土俵は同じなのだ。今回は「郵政民営化」という一つの法案を巡って起きた政変劇だが、民主党の中にも郵政民営化論者はたくさんいる。

選挙民のサイドにも同じような心理が働いている可能性が強い。主義主張では決着が付いたので、「(改革の)手順とスピード」を選びたいという心理である。誰が見ても今の日本は曲がり角に直面している。人口は今が頂点で、2050年には8000万人の国に、2100年には4500万人の国になると思われている。今までの人口の増加トレンドのなかで作ってきた日本の国の制度が、いろいろな面で変えていかねばならない時期に来ていることは見えている。

つまり、選挙が今までのようなイメージでの人選び、主義主張中心の政党選びの段階を過ぎて、日本、日本経済が大きな曲がり角に立つなかで投票者がイシュー(争点)ごとに解決の方向性を明確に選び、改革のスピードを選択するのである。

《 not emotion but issue 》

今回の選挙の「争点」に関しては、自民党の意図は「郵政民営化」への一本化である。ある意味で分かりやすい。民主党は、郵政民営化への焦点集中を避けたい方針を今でも続けている。年金や社会保障であり、共産、民主は健康や暮らしを持ち出している。しかし、この中で年金や社会保障で特に民主党が選挙民にとって「これは凄い」という政策を持っている訳ではない。今のところ戦いは始まったばかりだが、民主党の政策や主張は、「We can do better!」と言っているに過ぎない。

これに対して、自民党の「郵政民営化」に関しては、党を割っても選挙に出たと言うことで、「小泉さんはきちんとリスクを取った」という肯定的受け止め方が多いと思う。日本国民は、久しぶりに真剣な政治家を見た。今までの政治家は女とお金に縋って汚かったし、あとは評論家上りのような人物が多かった。そうした中では異色だと見ているのである。その後の対立候補の選び方には眉をひそめるマイナス材料が多いが、直接選挙に訴え、国民に聞く方法を選んだやり方に関しては是認できると見ている人が多い。

選挙を前にしての傾向を見ると、世論調査を行うごとに「郵政民営化」支持率が高まっている。小泉首相の支持率も、岡田さんの支持率に比べて極めて高い。岡田さんが、「民主党に政権を取らせて下さい、岡田に首相をやらせて下さい」と言っているのを見ると違和感

を覚えるのは私だけだろうか。もっと「これをする」というのを前面に出さないとな権者も一步を踏み出せない気がする。

「争点」が前面に出た今回の選挙にあって、投票者の心に「心理的代償行動」の必要性が生ずるだろうか。筆者には、「もうそろそろ日本の政治においても、その場その場で決着を付けたい」と思っている投票者が多いように思う。経済がうまく行き始めた今だからこそ、「そろそろ政治にも方向性を」と考えている人が多いのではないだろうか。よって、心理的代償行動的ねじれ投票は減ると見る。筆者は「比例も自民で」の人が増えると思う。

実際に選挙はどう動くのか。ここには、誰の対立候補に誰とテレビや新聞が大騒ぎしている部分も含まれる。しかし、最終的にどう誰に誰が対抗するか決まっていない選挙区も多い。だから予測の範囲を出ないが、今の段階で私の目で見通せることを書くと、次のようなことが言えると思う。

前回選挙区選挙で105しか議席を取れなかった民主党は恐らく議席を伸ばす。なぜなら、例えば小林興起対小池百合子のような選挙区（東京10区）では、結果的に民主党が漁夫の利を得る可能性もあるからだ。いくらマスコミで注目されても、衆議院選挙の選挙区選挙は落下傘では戦いがなかなか難しいと言われている。彼らは重複候補として比例にも出るかも知れないが、ホリエモンのように無所属で出れば選挙区選挙に全力を投ずるしか方法がない。重要なことは、全国300選挙区では当選者は各選挙区一人しかいないということだ。

2003年の総選挙において選挙区選挙で168も議席を取った小泉自民党は、恐らく議席を減らす。なにせ37人も抜けた。抜けた37人の造反元議員を分析すると、比例が12いた。ということは、25が選挙区から当選してきた人だったということだ。12人のうち、二人は既に今回の選挙から撤退した（能勢と村井の両氏）。熊代元議員も衆議院選挙に出ないことを決めた。比例から出ていた造反組のうち残りの10人は選挙区で出るかも知れないが、彼らはそもそも比例区で議員になったということは、コストリカ方式の人以外は選挙区では弱かったということだ。

こうしたことを考えると、選挙区で自民が分裂状態になり、二人の自民系候補者が真っ向から対立して民主党が有利になる選挙区は、20程度ではないだろうか。しかし民主党がそれらの選挙区ですべて勝つわけではない。民主党は今までの戦局を見る限り、埋没気味である。よく分からないが、民主党の勝者は選挙区から18人増えて、123人くらい出てくるかも知れない。

では、自民党はいくつになるのか。168（選挙区選出議員数）から25減ったところからスタートする。とすれば143だが、その後の無所属や保守党のもってきた選挙区選挙の議席や、小泉自民党に「風」が吹いていることを考えれば、153程度は取れるかも知れない。社民や共産（合計15）は減るだろうからだ。創設したばかりの新党が選挙区選挙で当選があったとしても、一桁の下だろう。

《 procedure and speed 》

問題は、比例区である。「心理的代償行為」の結果として、民主党がかなり多めの票を取ってきたと思われることは既に述べた。なにせ、自民党の2066万に対して、民主党は2210万の票を比例区選挙で取っているのである。

筆者は、今回の総選挙においては、比例区選挙は民主党にとって厳しいと思う。特に前回有利だった大都市圏においてその傾向が強まるだろう。なぜなら、民主党というのが実は保守の部分の色濃く残した政党だと言うことが明確になったからだ。「郵政民営化」とさえも言えないのであり、その裏に労働組合の存在が見え隠れするからだ。繰り返すが、今回の選挙では比例区で「自民党」と書く人が増えると思う。数百万の単位で増える可能性がある。世論調査は今のところその可能性を示している。その結果、久々に自民党は比例区選挙の得票数で第一党になるだろう。

共産、社民の比例票は減少するだろう。そう考える理由は、今回の選挙は先に述べた通り「(改革の)手順とスピード」を競う選挙なのに、両党がそもそも改革を拒否している、すくなくともそう見える“保守政党”だからだ。現状を変えたくないのだから、言ってみれば保守である。自民党の選挙スローガンは「改革を止めるな」であって、一番改革姿勢が前に出ているし、何にせよ「26万人いる郵政関連の常勤雇用を民間人にする」という自民・公明の主張は明確である。社民党、共産党がもっていた「国民の選択肢」としての役割は低下すると考える。

先に述べたように、「選挙区では自民の候補を推したから、比例では民主党に入れる」という人は、今回は激減すると思われる。今回は選挙区で自民の候補を入れた人は、今回は比例区でも「自民党」と書く人が多くなると筆者は思う。

ということは、比例での自民の獲得議席はもしかしたら75程度(前は69)に増えるかも知れない。もしそうなったら、自民党の獲得議席は153+75で228だ。解散時議席249に比べて、わずか21の減少に止まる。むしろ、249から37を引いた212より増えるのである。その結果、公明党の獲得議席が34で変わらないとすると、自民・公明の連立与党の獲得議席数は262議席で、241を遙かに超える。

恐らく、民主党は現行の175から190議席程度への議席増が可能だろう。しかし岡田代表が言う「単独での政権獲得」は無理だ。

むろんこの予想は、筆者が現在得られる情報と、個人的感触、それに今から変わるかも知れないいくつかの前提から導き出したもので、当たるかどうかは分からない。いくつかの不確定要素もある。例えば、日曜日の午後5時になって発表され新党日本が、今後どう展開するのか。

この政局で今までのところ新党大地、国民新党に次いで三つ目だが、選挙法上は現職+前職衆議院議員の5人が参加していなければ政党とは認めない。つまり比例の対象になら

ない。新党大地、新党日本は、その適格性を満たすことが出来ていない。

今後の日本の積極、その後の政局を睨んで筆者が興味深いと見ていることを上げるならば、以下の通りです。

- 1 . 繰り返し指摘したが、今回の選挙で投票者のねじれとも言える「心理的代償行為」投票がどの程度減少し、それがどちらに有利に展開するか（筆者は自民党有利に展開すると見るが）
- 2 . 自民党・公明党が万が一にも過半数が取れずに、かつ「単独過半数での政権奪取」を狙っている岡田・民主党が比較第一党になった場合に、日本の政局はどうなるのか
- 3 . 郵政民営化法案を否決した参議院のサイドが、衆議院選挙の結果をどうみるのか。そして、小泉自民党が勝った場合に回ってくる郵政民営化法案をどう扱い、通すのか通さないのか
- 4 . 「政権交代をできなかつたら、代表の座を降りる」とまで言った岡田代表はいまのままではその通り選挙後は代表の座を降りざるを得なくなる可能性が高いが、その場合は後継を誰にするのか。それも含めて民主党がもめて、党が割れる可能性がある
- 5 . その場合に予想される政局の流動化は、三つ出来た新党のうち二つを巻き込んで、予想できない展開になる可能性がある

などだろうか。新党日本（小林興起などがいる）について、国民新党では都市住民の不満が拾えないと考えた小林興起氏などが音頭を取ったと見られ、恐らく国民新党とは一線を画した動きを取るだろう。日曜日のテレビでは亀井静香氏は自分達とは違う新党誕生に関して「おもしろい」とは言っていたが、「何も聞いていなかった」という雰囲気に見て取れた。逆に小林興起氏は、「国民新党のことは聞かされていなかった」と言っていたから、多分全く異なった動きだ。小林興起氏が、国民新党に入って綿貫・亀井グループとやる魅力はない。

いずれにせよ、「改革進行」は日本の大勢の意見になったということだ。だから外国人投資家は、総選挙が決まった段階で日本の株を大きく買い越し始めた。閉塞を打ち破るという意味では、時宜を得た選挙だと言える。

今回の選挙は改革の「手順とスピード」を選択する選挙になっている。そしてそもそもこの背順とスピードの議論に加わらない政党は、その勢力を落とし、なかには消える政党も出てくるだろう。その意味でも興味深い選挙だ。

今週の主な予定は以下の通り。

8月22日(月)	7月コンビニエンスストア売上高
8月23日(火)	6月第3次産業活動指数 麻生総務大臣がインド訪問 米7月中古住宅販売件数
8月24日(水)	7月企業向けサービス価格指数 米7月耐久財受注 米7月新築住宅販売 米シカゴ連銀総裁講演
8月26日(金)	8月都区部・7月全国消費者物価 米8月ミシガン大学消費者信頼感指数(確報) グリーンスパン米FRB議長講演

《 have a nice week 》

週末はいかがお過ごしたか。暑い週末でした。土日とも外に出ましたが、それはそれは暑かった。しかし夕方の風は若干ですが、秋を感じる風でした。既にデパートでは秋風が吹いています。

それにしても、高校野球はつい見てしまいますね。大リーグ中継と相前後しながら両方を見比べると、日本の高校球児達のなんと小さく、かわいいことかと思う。しかし、おもしろさとかでは、日本の高校野球はMLBに少しも負けていない。下手なプロ野球より、街のリトルリーグの方がよほど面白いことがある。

それにしても、2夏連続して深紅の優勝旗が津軽海峡を渡るとは、時代が変わったんだと思う。駒大苫小牧という高校に行ったことはありませんが、多分冬の間にもみっちり練習できる十分な施設があり、時には冬でも使えるグラウンドを本州にも持っているのでしょう。でなかったら、決勝戦までほとんどゼロのエラーは考えられない。まあ凍土練習というのもやっているのだそうです。

このチームは本当に鍛えられている、精神的にも強いと思ったのは、特に準決勝、決勝の二試合とも、リードしながら一端は追いつかれるのである。しかも先攻で。リードしているところを後攻に追いつかれれば、普通は大ピンチです。大阪桐蔭との試合では、駒大苫小牧の監督でさえ「万事休すか」と思ったという。しかし、駒大苫小牧は両試合とも、追いつかれたところから、一点、そして二点を取って優勝した。ピッチャーにも、精神的粘りがある。

それにしても、野球の神様は時に残酷な役割を選手に負わせるものだと思います。大阪桐蔭の平田君です。準々決勝では、彼は3本のHRを含む4 - 4でしたっけ。凄まじい活躍の場を神様は彼に与えた。何ともうまいバッティングをする選手でした。

ところが、準決勝の平田君は3三振を含むノーヒット。しかも彼を最後のバッターに設定し、そしてその終わり方も外角の実に明確なボールに対して、中途半端な振りでのアウト。

それが終幕。彼にとって、何という幕引きであったことか。きっと悔しくて、夜も眠れていないでしょう。

たった一日が彼の何を変えてしまったのか、と思う。まあそれは恐らく自分自身の活躍でしょう。あのHRを2本くらいにしておけば良かった。清原と並んだ、と言われたときから精神的な疲れが来たのでは。その点は、高校時代の清原はずぶとかった。まあ、彼もこれからですよ。体は清原より柔らかいように見える。悔しさをバネにして欲しいものです。

それでは皆さんには良い一週間を。

《当「ニュース」は、住信基礎研究所主席研究員の伊藤 (E-mail ycaster@gol.com) が作成したものです。許可なき複製、転送、引用はご遠慮下さい。また内容は表記日時に作成された当面の分析・見通しで一つの見方を示したものであり、売買を推奨するものではありません。最終的な判断は、御自身で下されますようお願い申し上げます》